

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 29 日現在

機関番号：14403

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2010～2014

課題番号：22242022

研究課題名(和文) 石刻史料と史料批判による魏晋南北朝史の基本問題の再検討

研究課題名(英文) The re-examination of the basic problem of the history of Wei, Jin, Northern and Southern Dynasties by means of the stone documents analyses and the historical materials criticism

研究代表者

伊藤 敏雄 (Ito, Toshio)

大阪教育大学・教育学部・教授

研究者番号：00184672

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 25,200,000円

研究成果の概要(和文)：魏晋南北朝史に関する石刻史料の主要な出土地である洛陽・南京・西安・太原・大同・安陽などで現地調査を実施し、基本的石刻史料のデータ・ベースを作成した。基本問題のうち、貴族制については、貴族制形成期の史料が後世の貴族制の影響を受けていることを強調し、北朝・南朝の貴族制の実態を明らかにした。官僚制については、北魏後期の官僚の昇進がシステマ的であったことなどを明らかにした。民族問題については、民族問題に関連する新出石刻史料を紹介するとともに、六鎮の乱の民族的背景などを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：We carried out field investigations in Luoyang, Nanjing, Xi'an, Taiyuan, Datong and Anyang, the main discovery areas of the stone documents which related to the history of Wei, Jin, Northern and Southern Dynasties. We made the data bases of the fundamental stone documents. We reexamined the following basic historical problems of this period.

As for the noble system, We pointed out that the historical materials of the noble system in the period of its formation were influenced by the the noble system of the succeeding period. We also elucidated the actual condition of the noble system in the period of Northern and Southern Dynasties. As for the bureaucracy system, we revealed that the promotion of bureaucracy was systematic in the second half of Northern Wei period. As for the ethnic problem, we introduced the newly discovered stone documents related to the ethnic problem. In the same time, we pointed out the ethnic background of the Six Cities Revolt.

研究分野：中国古代史

キーワード：魏晋南北朝史 石刻史料 墓誌 史料批判 貴族制 官僚制 民族問題

1. 研究開始当初の背景

魏晋南北朝時代は、中国史上の画期の一つとして重視され、かつて、時代区分・貴族制・共同体論をめぐる論争があり、国内外から注目されたが、1980年代後半から個別実証研究に細分化する傾向にあった。こうした研究状況に対し、魏晋南北朝時代を総合的に把握する試みが求められている。

魏晋南北朝時代の石刻史料については、従来、個別研究によって成果を挙げてきたが、近年続々と新出石刻史料が発見され、従来から知られていた墓誌などの石刻史料と併せて研究の見直しと深化が可能になると同時に、共同研究の必要性が増大している。

2. 研究の目的

本研究は、研究代表者が代表を務めた研究プロジェクト「出土史料による魏晋南北朝史像の再構築」(科学研究費補助金、平成 18～20 年度)による研究のうち石刻史料に関する成果を踏まえ、新出石刻史料を中心にしながら、既出の石刻史料と合わせて、墓誌を中心に総合データ・ベースを構築するとともに、石刻史料及び文献史料の史料批判的研究によって、文献史料や石刻史料の直接的活用による従来の研究を見直し、魏晋南北朝史に関する基本問題(貴族制・官僚制・基層社会・民族問題)を再検討し、魏晋南北朝史研究における個別細分化傾向を打破しようとするものである。

3. 研究の方法

魏晋班、北朝班、南朝班とデータ・ベース化の責任者からなる研究体制を組織して研究に着手し、データ・ベース化の責任者が中心となって、可能な限り完成度の高い石刻史料(特に墓誌)の総合データ・ベースを構築する。班ごとに、個別研究により、石刻史料と文献史料の史料批判的研究を推進するとともに、年3回程度研究打合せを実施し、共同討議により研究の深化と総合化をはかる。また、本研究には、石刻史料の実見調査が不可欠なので、主要な出土地である大同・太原・洛陽・西安・南京などで現地調査を実施し、それを踏まえて研究を進展させる。年次ごとの研究成果については、魏晋南北朝史研究会大会や中国魏晋南北朝史学会年会(平成 25 年度)などで報告するが、最終年度(平成 26 年度)には、国際学術シンポジウムの開催と論文集の刊行を行う。

4. 研究成果

(1) 魏晋南北朝史に関する石刻史料の主要な出土地である洛陽・南京・西安・太原・大同・安陽などで現地調査を実施し、新出の墓誌などの石刻史料や関係文物などを閲覧調査するとともに、新出石刻史料に関連する情報を入手した。特に洛陽では当時未公開の墓誌の拓本約 70 点を入手し、将来の公開に備え、これらの釈文を作成した(現在はいずれ

も公開されている)。

(2) 想定以上の新出石刻史料の増大等により、総合データ・ベースを構築するまでには至らなかったが、基本的な石刻史料のデータ・ベースを作成した。趙超『漢魏南北朝墓誌彙編』(1992)、羅新・葉伊『新出魏晋南北朝墓志疏証』(2005)掲載の墓誌のデータ・ベース(試行版)を作成したほか、新出の『大唐西市博物館蔵墓誌』(2012)北魏～隋部分釈文のデータ・ベース(試行版)も作成した。また、毛遠明『漢魏六朝碑刻校注 全 10 冊』(2008)のうち三国～北魏部分の石刻情報と釈文のデータ・ベース(試行版)化もほぼ終了した。

(3) 研究成果発表と研究深化のために、中間成果発表会として 2012 年 9 月に国際学術シンポジウム「墓誌を通じた魏晋南北朝史研究の新たな可能性」を開催し、2014 年 9 月には最終年度の研究成果発表会として国際学術シンポジウム「石刻史料から見た魏晋南北朝史 北朝史を中心に」を開催した。これらのシンポジウムの講演・報告を中心にしながら、中間成果報告書『墓誌を通じた魏晋南北朝史研究の新たな可能性』を 2013 年 5 月に刊行し、2015 年 3 月に研究成果報告書『石刻史料と史料批判による魏晋南北朝史研究』を刊行した。

(4) 魏晋南北朝史の基本問題のうち、貴族制については、以下のような成果を挙げた。

貴族制をめぐる諸問題を整理した。

文献史料の史料批判的研究によって、貴族制形成期の史料『後漢書』が後世の貴族制の影響を受けていることを強調した。

貴族制と密接に関わる九品中正制度の「中正官」の特異性を明示した。

石刻史料をもとに、北魏弘農楊氏の系譜、実績、婚姻関係、倫理生活の実態を明らかにした。

史料批判的研究によって、南朝の貴族制と士庶区別の実態を明らかにした。

(5) 基本問題のうち、官僚制については、石刻史料をもとに、北魏後期の官僚の昇進がシステマ的であったことを明らかにし、宮崎市定『九品官人法の研究』の北魏官制の理解とは異なることを指摘した。

(6) 基本問題のうち、民族問題については、以下のような成果を挙げた。

2012 年 9 月の国際学術シンポジウムの際に、新出の大唐西市博物館蔵墓誌(当時未刊)のうち北朝墓誌 9 点を紹介していただいたが、それらには北方民族関係のものが多く、当時の民族融合の状況を確認できた。特に、李鴻賓氏(中央民族大学)は北方民族の是云氏と北魏拓跋氏と賀拔氏との複雑な婚姻関係を明らかにした。

石刻史料をもとに、六鎮の乱は、酋長層を主体とし、漢化政策が原因ではなく、柔然の漠南移動を契機とする民族反乱の性格を持つことを明らかにした。

2014年9月の国際学術シンポジウムの際に、朴漢濟氏（ソウル大学校）が、石刻史料に見える北方民族に関する問題や北方民族の官制を整理した。

(7) 基本問題のうち、在地社会に関する問題では、石刻史料をもとに、北朝の邑義の実態、特に女性による集団造像の実態を明らかにするとともに、6世紀前半青齊地方における仏教の展開とその特徴を明らかにした。

(8) 簡牘の史料批判的研究によって以下のような成果を挙げた。

長沙呉簡中の木牘について、「叩頭死罪白」文書木牘、「君教」文牘書木、「料白」文書木牘、「白」文書木牘、「破茹保據」木牘、「拳」木牘に分類し、「叩頭死罪白」文書木牘が竹簡と編綴されていたこととその意味を明らかにした。

2004年出土の湖南省攸州晋簡は291～304年頃のもので、その中に西晋武帝の泰始4年（268）の「五條詔書」の詳しい内容が含まれており、北齊の「五條詔書」とほぼ同内容であることを明らかにした。

(9) 石刻史料自体の研究、石刻史料を利用した研究では、以下のような成果を挙げた。

石刻史料も史料批判的に研究する必要があることを強調した。

2012年9月の国際学術シンポジウムの際に、張銘心氏（中央民族大学）が墓誌の源流について整理し、基本的な考え方を提示した。

張朗墓誌を例として、西晋における墓誌成立の時代背景を明示した。

西晋の荀岳墓誌、成晃墓誌、菅洛墓誌をそれぞれ検討し、その歴史的意義を明らかにした。

中国古代における墓券の展開について整理し、基本的な考え方を提示した。

2014年9月の国際学術シンポジウムで、葉イ氏（北京大学）が新出墓誌を多数含む墨香閣蔵北朝墓誌（現在未刊）とその価値を紹介した。

墓誌銘中の「銘辭」について、史料批判的に検討し、南朝の墓誌の影響を受けて、北魏の洛陽遷都後、短期間に墓誌の定型化が進んだことを再確認した。

石刻史料を手掛かりに、馮熙夫婦墓が洛陽に造成された意味や、長樂馮氏と北魏帝室との関係を明らかにした。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 30 件）

安部聡一郎「3 中国の世紀政治・社会と出土文字資料」『歴史評論』769号、査読無、2014、54-64

伊藤敏雄「長沙呉簡中の『叩頭死罪白』文書木牘小考 文書木牘と竹簡との編綴を中心に」『歴史研究』（大阪教育大学）第51号、査読無、2014、29-48

窪添慶文「北魏後期における將軍号」『東洋学報』（東洋文庫）第96巻第1号、査読有、2014、31-59

關尾史郎「本貫の記憶と記録 敦煌張氏の場合」關尾史郎（編）『環東アジア地域の歴史と「情報」』知泉書館（新潟大学人文学部研究叢書）、査読無、2014、5-26

關尾史郎「トゥルフアン出土墓誌の本貫記載について 「本貫の記憶と記録」拾遺」『資料学研究』（新潟大学）第11号、査読無、2014、逆1-15

福原啓郎「西晋における墓誌成立の時代的背景 張朗墓誌を例として」『書論』第40号、査読無、2014、63-77

伊藤敏雄「長沙呉簡中の生口売買と『估錢』徴収をめぐる『白』文書木牘の一例として」『歴史研究』（大阪教育大学）第50号、査読無、2013、97-128

窪添慶文「遷都後の北魏墓誌に関する補考」『東アジア石刻研究』第5号、査読無、2013、1-24

佐藤智水「中国における初期の邑義について(下) 女性による集団造像」『龍谷大学仏教文化研究所紀要』第51号、査読無、2013、105-139

福原啓郎「西晋の菅洛墓誌について」『京都外国語大学研究論叢』第81号、査読無、2013、逆1-19

福原啓郎「西晋の成晃墓誌について」石田肇教授退休記念事業会編『金壺集 石田肇教授退休記念金石書学論叢』石田肇教授退休記念事業会、査読無、2013、72-82

伊藤敏雄「長沙呉簡中の邸閣・倉史とその関係」『歴史研究』（大阪教育大学）第49号、査読無、2012、21-45

窪添慶文「長樂馮氏に関する諸問題」『立正史学』（立正大学）第111号、査読有、2012、11-31

佐川英治「南北朝新出土墓誌の実地考察 南京・洛陽・西安・太原」『早期中国史研究』第4巻第1期、査読有、2012、154-193

關尾史郎「後秦政権の鎮人・編戸制と徙民措置」『東アジア 歴史と文化』（新潟大学）第21号、査読無、2012、1-22

福原啓郎「『中正』官の特異性について 魏晋時代における国家と社会に関する一考察」中国社会科学院歴史研究所・日本東方学会・武漢大学三至九世紀研究所編『第三屆中日学者中国古代史論壇文集』中国社会科学出版社、査読無、2012、125-152

- 伊藤敏雄・永田拓治「邳州晋簡初探—上計及び西晋武帝郡国上計吏勅戒との關係を中心に—」『長沙吳簡研究報告 2010 年度特刊』(長沙吳簡研究会)、査読無、2011、47～63 頁
- 窪添慶文「北魏墓誌中の銘辞」『立正大学文学部紀要』第 133 号、査読無、2011、1 - 24
- 佐川英治「游牧与農耕之間 北魏平城鹿苑的機能及其変遷」『中国中古史青年学者聯誼会会刊』第 2 卷、中華書局、査読有、2011、102 - 136
- 佐藤智水「中国初期仏教における儒教・道教との論争と交感」『問答と論争の仏教 宗教的コミュニケーションの射程』法蔵館、査読無、2011、111 - 129
- 21 福原啓郎「日本における六朝貴族制論の展開について」『京都外国語大学研究論叢』第 77 号、査読無、2011、209 - 225
- 23 葭森健介「土庶考 对唐宋变革前史の一個考察」『日本中国史研究年刊 2008 年度版』上海古籍出版社、査読有、2011、116 - 159
- 24 佐藤智水「山西省塔寺石窟北壁の北魏造像と銘文」『龍谷史壇』130 号、査読無、2010、1 - 37
- 25 中村圭爾「漢唐関における地理の叙述とその系譜」『郵政考古紀要』第 50 号、査読無、2010、178 - 195 頁
- 26 福原啓郎「西晋の荀岳墓誌の検討」『京都外国語大学研究論叢』第 75 号、査読無、2010、1 - 26
- 27 葭森健介「東亜世界的形成与中国皇権」『南京師大学報(社会哲学版)』2010 年第 4 期、査読無、2010、70 - 78

〔学会発表〕(計 38 件)

- 安部聡一郎「関于范曄《後漢書》史料的考察 - 以東漢末期的士人動向為中心」北京大学人文基金講座、招待講演、北京大学(中国・北京)、2015 年 3 月 19 日
- 安部聡一郎「日本近二十年史料論的研究之背景」“中古中国的政治与制度”學術研討会、招待発表、首都師範大学(中国・北京)、2014 年 5 月 25 日。
- 伊藤敏雄「長沙吳簡中の《叩頭死罪白》文書木牘」魏晋南北朝史研究の新探索 魏晋南北朝史学会第十一届年会暨國際學術研討会、北京世紀金源香山商旅酒店(中国・北京)、2014 年 10 月 12～15 日
- 川合安「南朝の土庶區別」魏晋南北朝史研究の新探索 魏晋南北朝史学会第十一届年会暨國際學術研討会、北京世紀金源香山商旅酒店(中国・北京)、2014 年 10 月 12～15 日
- 川合安「南朝貴族制社会と土庶區別」第 14 回魏晋南北朝史研究会大会、日本女子大学(東京)、2014 年 9 月 13 日
- 窪添慶文「北魏後期における官僚の遷転」國際學術シンポジウム「石刻史料から見た

- 魏晋南北朝史 北朝史を中心に」、東洋文庫(東京)、2014 年 9 月 14 日
- 佐川英治「北魏末の北辺社会と六鎮の乱 楊鈞墓誌と韓買墓誌」國際學術シンポジウム「石刻史料から見た魏晋南北朝史 北朝史を中心に」、東洋文庫(東京)、2014 年 9 月 14 日
- 佐藤智水「6 世紀前半の青齊地方における仏教の展開 清河の張氏をてがかりに」國際學術シンポジウム「石刻史料から見た魏晋南北朝史 北朝史を中心に」、東洋文庫(東京)、2014 年 9 月 14 日
- 佐藤智水「山東の地域社会と女性主導の造像事業」國際ワークショップ「仏教石刻と地域社会」(龍谷大学アジア仏教文化研究センター主催)、龍谷大学(京都)、2014 年 1 月 26 日
- 安部聡一郎「范曄『後漢書』史料批判研究 以東漢末期的士人動向為中心」復旦大学中華文明國際研究中心訪問学者講座(招待講演)、復旦大学(中国・上海)、2013 年 3 月 5 日
- 關尾史郎「古代中国における墓券の展開」ポッフム大学東アジア学部主催講演会(招待講)、ポッフム大学(ドイツ・ポッフム)、2013 年 2 月 15 日
- 窪添慶文「北魏における弘農楊氏」魏晋南北朝史研究会 2012 年度大会、日本女子大学(東京)、2012 年 9 月 15 日
- 佐川英治「南北朝新出墓誌の現地調査 南京・洛陽・西安・太原」國際シンポジウム「墓誌を通じた魏晋南北朝史の新たな可能性」日本女子大学(東京)、2012 年 9 月 16 日
- 佐藤智水「中国北朝造像銘の調査・研究から見えるもの」佛教史学会、大谷大学(京都)、2012 年 11 月 17 日
- 福原啓郎「西晋の張朗墓誌の総合的研究を目指して」魏晋南北朝史研究会 2012 年度大会、日本女子大学(東京)、2012 年 9 月 15 日
- 福原啓郎「西晋の当利社残碑の歴史的意義」第 5 回中国石刻合同研究会、明治大学(東京)、2012 年 7 月 28 日
- 伊藤敏雄「長沙吳簡中の朱痕和主筆」中国魏晋南北朝史学会第十届年会暨國際學術研討会、天瑞商務酒店(中国・太原)、2011 年 10 月 19 日
- 伊藤敏雄・永田拓治「邳州晋簡初探—以邳州晋簡与上計及西晋武帝勅戒之關係為中心の一個考察—」唐長孺先生百年誕辰紀念國際學術研討会暨中国唐史学会第十一届年会、武漢大学(中国・武漢)、2011 年 7 月 4～6 日
- 伊藤敏雄「長沙吳簡中の邸閣・倉吏」中日長沙吳簡學術研討会、君逸康年大酒店(中国・長沙)、2011 年 3 月 15 日
- 窪添慶文「石に刻された生涯」学習院大学東洋文化研究所 78 回東洋文化講座“中国古代の文字と記録媒体”(招待講演)、学習

- 院大学東洋文化研究所（東京）2011年10月7日
- 21 佐川英治「南北朝新出土墓誌の実地観察 南京、洛陽、西安、太原」東亜碑刻史料解説工作坊（招待講演）台湾大学（中国・台北）2011年12月9日
- 22 佐川英治「中国中古軍功制度初探」唐長孺先生百年誕辰紀念国際学術研究会暨中国唐史学会第十一届年会、武漢大学（中国・武漢）2011年7月4～6日
- 23 佐藤智水「山西省沁水県の柳木岩摩崖造像と銘文について」2011年度第2回ガンダラ研究会、龍谷大学（京都）2011年7月23日
- 24 佐藤智水「中国山東省に残る仏教造像銘の調査 山東の孔氏による金銅像銘文」2011年度アジア仏教文化センター第3回ユニット研究会、龍谷大学（京都）2011年5月24日
- 25 佐藤智水「北魏正始元年 張道智造像記 解説と考察」中国仏教石刻研究会、龍谷大学（京都）2011年1月10日
- 26 關尾史郎「木と紙のあいだ」学習院大学東洋文化研究所 79 回東洋文化講座“中国古代の文字と記録媒体”（招待講演）学習院大学東洋文化研究所（東京）2011年10月20日
- 27 福原啓郎「『中正』官の特異性について」第三屆中日学者中国古代史論壇會議、武漢大学（中国・武漢）2011年9月17日
- 28 福原啓郎「論晋辟雍碑陰題名中の“散生”」唐長孺先生百年誕辰紀念国際学術研究会暨中国唐史学会第十一届年会、武漢大学（中国・武漢）2011年7月4～6日
- 29 中村圭爾「魏晋南北朝の貴族と郷里社会」東方学会（第二屆中日学者中国古代史論壇）日本教育会館（東京）2010年5月21日

〔図書〕（計 5 件）

- 伊藤敏雄（編）『石刻史料と史料批判による魏晋南北朝史研究』当該科学研究成果報告書、2015、171頁
- 川合安『南朝貴族制研究』汲古書院、2015、376頁
- 伊藤敏雄（編）『墓誌を通じた魏晋南北朝史研究の新たな可能性』当該科研中間成果報告書、2013、114頁
- 中村圭爾『六朝政治社会史研究』汲古書院、2013、593頁
- 福原啓郎『魏晋政治社会史研究』京都大学学術出版会、2012、513頁

〔その他〕

- 伊藤敏雄（編）「『漢魏南北朝墓誌彙編』データ・ベース（試行版）」エクセル版、2011、986KB
- 伊藤敏雄（編）「『新出魏晋南北朝墓志疏証』データ・ベース（試行版）」エクセル版、2012、

874KB

伊藤敏雄（編）「『大唐西市博物館蔵墓誌』北魏～隋部分データ・ベース（試行版）」エクセル版、2013、398KB

大阪教育大学リポジトリ

<http://ir.lib.osaka-kyoiku.ac.jp/dspace/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

伊藤 敏雄（ITO, TOSHIO）
大阪教育大学、教育学部・教授
研究者番号：00184672

(2) 研究分担者

安部 聡一郎（ABE, SOICHIRO）
金沢大学・歴史言語文化学系・准教授
研究者番号：10345647

川合 安（KAWAI, YASUSHI）
東北大学・文学研究科・教授
研究者番号：30195036

窪添 慶文（KUBOZOE, YOSHIFUMI）
公益財団法人東洋文庫・研究部・研究員
研究者番号：40011382

佐川 英治（SAGAWA, EIJI）
東京大学・大学院人文社会系研究科（文学部）・准教授
研究者番号：00343286

佐藤 智水（SATO, CHISUI）
龍谷大学・アジア仏教文化研究センター・研究フェロー
研究者番号：40116463

關尾 史郎（SEKIO, SHIRO）
新潟大学・人文社会・教育科学系・教授
研究者番号：70179331

中村 圭爾（NAKAMURA, KEIJI）
相愛大学・人文学部・教授
研究者番号：00047383

福原 啓郎（FUKUHARA, AKIRO）
京都外国語大学・外国語学部・教授
研究者番号：60221537

葭森 健介（YOSHIMORI, KENSUKE）
徳島大学・大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部（総科）・教授
研究者番号：50191648